

白馬

幸手市立吉田小学校 学校だより 《令和2年11月30日12月号》
〈学校教育目標〉 〈児童数〉

☆みんなと仲良くする子 にこにこ 男子 38名
☆こつこつ勉強する子 わくわく 女子 34名
☆しっかり運動する子 のびのび 合計 72名



12月

木内マジックに隠されたやる気にさる教育

校長 二階堂 朝光

取手二高や常総学院高(ともに茨城)の野球部監督を歴任し、春1回、夏2回の甲子園優勝に導いた木内幸男さんが24日、肺がんのため死去しました。89歳でした。

木内さんは取手二高を率いていた1984(昭和59)年、夏の甲子園決勝で桑田真澄、清原和博の「KKコンビ」を擁するPL学園(大阪)を延長10回の末に8-4で退けて優勝。常総学院を率いた2003(平成15)年には、夏の甲子園決勝で2年生エースのダルビッシュ有(現カブス)を擁した東北(宮城)を退けて優勝しました。勝利を呼び込む絶妙な采配は「木内マジック」とも評されました。取手二高が優勝した年、公立高校の生徒だった私は、怪物KKコンビを倒した興奮を今でも忘れられません。追悼記事から「木内マジック」の秘密を探ってみました。

—84年夏の甲子園決勝で木内氏が率いる取手二と対戦し敗れたPL学園のエースだった桑田氏は、対戦した時を「いつもベンチでニコニコしていたんです。我々の時代は、グラウンドで歯を見せてはいけないという時代に寡黙に野球に取り組むことが正しいとされていた」とした上で「選手がエラーしても三振しても笑っているんですね。なんなんだろう、この野球は…と違ってですね」と振り返った。

その上で「木内さんも昔の方ですからいろいろ時代に合わせて選手の指導法、掌握術を学んでこられて実践された方だなと思います」と惚んでいた。

—木内さんは、こう振り返る。

—試合で勝つにはチームプレーが肝心。ランナーが出たら、打者は鋭くゴロを転がすのが鉄則で、大振りして凡フライでは駄目。が、いつ頃からか、言う通りせん子に「こら！」と叱っても一向に怖がらず、効き目がなくなった。何か手はないか、と頭をひねりました。

で、一計を案じる。子供らは小遣い銭が減るのを何より嫌がる。監督の指示に違反したら罰金を取る仕組みとし、違反一回につき罰金十円と取り決める。一回百円ではまずいが、十円なら許容範囲ではと考えてのこと。たかが十円と言うなかれ、少年たちは懐が寒くなるのを案じる。目の色が変わり、口で言い聞かすより、よほど効きめがあった。

—練習も、単純な反復ばかりでは飽きが出る。控え選手を含め二手に分け、実戦形式の紅白試合を数多くやらす。試合の運び方を考えさせるため、全員に順番で主将役をやらせ、打順の編成や投手交代なんかも一切任す。こっちはネット裏で腕組みしとればいいんだから気楽やし、あははは。

高校野球にありがちな、しごき抜く猛練習とは対極の行き方、とも言える。交代で主将役をやらせると、指揮ぶりから度胸の有無や勝負勘の良し悪しが知れる。ネット裏で観察を重ね、個々の性格の特徴を洗い出して全員の「査定表」をこしらえ、ここぞという場面での采配に存分に生かした。

試合形式の紅白戦もマンネリ化してはだめ。勝負に真剣になるよう、褒美と罰則を用意。前述のミス一回につき十円の罰金が「ちりも積もれば山」、一シーズンに千円位はたまる。勝った方は各人ジュース一本をもらって喉を潤し、負けた側は全員何ヶかのランニングを課される決まりに。

自主性といえば、木内監督は選手たちの男女交際を公認。彼らは好きな女の子の名前をバットに記し、そのご利益もあってかヒットを連発したという伝説も生んだ。木内野球は管理野球の真逆を行く「のびのび野球」だったのは確かなようだ。

木内監督は、木内マジックとして、その大胆な発想が有名ですが、実は、いかに選手一人ひとりを知り、生かすかというだけでなく、一人ひとりをやる気にさせる手法にもその秘密があったようです。木内監督の手法をそのまま学校教育に取り入れることはできませんが、大いに参考になる部分があります。ご冥福をお祈りいたします。

〈非認知能力について〉

非認知能力とは、IQや学力テスト、偏差値などのように、点数や指標などで明確に認知できるものではないけれど、子供の将来や人生を豊かにする一連の能力のことです。例えば、やり抜く力、目標に向かって頑張る力、自制・自律性、自己肯定感、他者への配慮、コミュニケーション能力、論理的な思考力など様々です。今年度、新型コロナウイルス感染防止措置として臨時休校があり、休校明けも新型コロナウイルス感染者が増加したことから、幸手市では「埼玉県学力学習状況調査」が行われませんでした。これまでの調査で、この学力調査によって、学力と非認知能力とに相関関係があることが明らかになっています。簡単に言えば、あきらめずに最後までやり抜くことができる子や、目標を持って計画的に実行できる子などは、そうでない子に比べて、学力テストの結果が良いわけです。今月、幸手市では、「幸手市統一学力調査」が行われます。学力調査に向け、過去問を解いたり、苦手な学習内容を復習したりして、対策をしているのですが、学力向上には「非認知能力」の向上も欠かせません。ご家庭においても、たくさん褒めることで自己肯定感を育んだり、ルールを決めてそれを守らせたりするなど、非認知能力の向上にご協力くださいますようお願いいたします。

〈12月・1月の主な行事予定〉

- 12/1日(火) 個別面談 5時間授業
- 2日(水) 個別面談 5時間授業
- 3日(木) 個別面談 5時間授業
- 4日(金) 個別面談
- 9日(水) 幸手市統一学力調査(2・3校時)
- 10日(木) 東中校区合同英語授業
- 12日(土) 土曜授業日 校内持久走大会
- 16日(水) クラブ活動
子供育成事業演劇鑑賞
- 17日(木) 6年生社会科現地学習
- 21日(月) 給食終了日
- 22日(火) 3時間授業 一斉下校
- 23日(水) 3時間授業
- 24日(木) 第2学期終業式 3時間授業
- 25日(金) 冬季休業日(1/7まで)

- 1/1日(金) 元旦
- 8日(金) 第3学期始業式
3時間授業 一斉下校
- 11日(月) 成人の日
- 12日(火) 給食開始
- 13日(水) 委員会活動 発育測定
- 14日(木) 読み聞かせ
- 15日(金) 第3回校内計算大会
お話の森による読み聞かせ
- 19日(火) スクールカウンセラー来校
- 20日(水) クラブ活動
- 27日(水) 東中校区教育相談連絡協議会
一斉下校
- 28日(木) 漢字検定



〈洋式化に伴うトイレ工事の終了のお知らせ〉

6月から着工が始まった、洋式化に伴うトイレの全面改修工事が10月で終わり、11月からは外の体育館前トイレを含めて、全てのトイレが洋式化となりました。この間、校庭は臨時駐車場となり、校庭使用に制限があったり、体育館脇の仮設トイレを使用してもらったりと、ご不便な点が多々あったことと思います。ご協力をいただいたおかげで、子供達は快適な生活を送ることができております。本当にありがとうございました。



〈文化芸術による子供育成総合事業について〉

文化庁では、文化庁が選定した文化芸術団体が、学校の体育館や文化施設でオーケストラや、演劇等の巡回公演を行う事業を進めています。本公演を前に、実施校へ赴き、鑑賞指導や実技指導を行うワークショップがあり、児童参加型の公演で子供達はより意欲的にオーケストラや演劇を鑑賞することができず。今年度は劇団かかし座による本公演を12月16日に予定しています。今からとても楽しみです。



